

令和2年度重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト 1000)里地調査

生物多様性センター

愛媛県生物多様性センターでは、環境省が全国規模で基礎的環境情報の収集と長期生態系観測を行う重要生態系監視地域モニタリング推進事業(モニタリングサイト

1000)里地調査において、四国地区重要監視地点(コアサイト)となっている東温市上林地区における水質調査を、平成20年度から実施している。

令和2年度も引き続き、拝志川流域の5地点(河川4、ため池1)で4月23日、6月23日、8月20日、10月21日、12月23日、翌2月24日の計6回調査を実施した。結果は以下のとおりである。

令和2年度モニタリングサイト1000里地調査(水質調査)結果*

調査項目	4月	6月	8月	10月	12月	2月
水温(℃)	9.6	17.5	20.4	14.2	6.4	8.5
	12.3	26.5	30.3	17.3	6.4	10.1
水位(cm)	未計測	26.0	17.8	22.0	23.0	24.5
	760	760	760	760	760	760
水色	—	—	—	—	—	—
	15	16	17	16	15	16
透明度	100.0	98.3	94.8	100.0	100.0	100.0
	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
pH	7.1	7.2	7.3	7.2	7.0	7.1
	6.8	6.8	7.0	6.8	6.8	7.0

※上段は河川4地点の平均値、下段はため池1地点の値

調査方法は、「モニタリングサイト1000里地調査マニュアル」(環境省・(財)日本自然保護協会)による。

令和2年度特定希少野生動植物保護区巡回調査

生物多様性センター

愛媛県野生動植物の多様性の保全に関する条例により、特に保護を図る必要がある23種が「特定希少野生動植物」として指定されている。中でも、生息地限られ保護が必要な6区域が「特定希少動植物保護区」として指定されており、定期的な巡回を行うとともに生息・生育状況の調査及び保護区の管理を行った。

1 片上地区アキサンショウウオ保護区

4月14日、卵嚢はふ化しており、幼生を確認。7月14日に幼生は確認できなかったが、例年この時期までに保護区から山林へ移動している。7月以降、降雨による土砂の堆積が見られたが、8月までに土砂の除去が行われた。3月17日には卵嚢が6個確認できた。

2 宅間地区アキサンショウウオ保護区

4月14日、卵嚢はふ化しており、幼生を確認。7月14日に幼体は確認できなかったが、例年この時期までに保護区から山林へ移動している。7月以降、降雨による土砂の堆積が見られたが、8月までに土砂の除去が行われ

た。2月16日に卵嚢が5個確認でき、3月17日に卵嚢が5個確認できた。なお、保護区より山林に近い水路では卵嚢が31個確認できた。

3 台地区ナゴヤダルマガエル保護区

6月9日に保護区の状況を確認したが、保護区の開発等はない。なお、ナゴヤダルマガエルの生息確認はなかった。

4 庄内地区ハッコウトンボ保護区

年間を通じて、湿地状態が維持された。(梅雨明け後、8月21日頃の降水がない時期は保全団体が灌水を実施)5月27日に今年度最大の891頭の羽化が確認された。

5 織田ヶ浜地区ハマビシ保護区

6月15日に発芽が確認され、2~3cmの株幅であった。7月14日には株が広範囲に生育しており、開花も見られた。7月31日から8月21日の間は、ほとんど降雨はなかったが、生育は良好で果実も見られた。9月7日、10月14日には多くの果実が見られたが、11月13日には葉の黄化や落葉し、12月16日には地上部が確認できた株は3株のみ、1月18日には地上部は見られなかった。

6 織田ヶ浜地区ウンラン保護区

4月14日に多数の株が確認された。6月15日にはハマゴウ、テリハノイバラの生育が旺盛であった。その下でウンランが生育しており、7月14日生育は良好で多数の開花が確認できたが、7月31日から8月21日の間、まとまった降雨がなく、地上部が黄化した株が多く見られたが、ハマゴウの陰の株は干ばつの影響が少なかった。10月14日には夏場の乾燥による枯死後、再出芽した株や開花した株が見られたが、11月13日には開花株は見られず、1月16日にはほとんどの茎葉は枯死した。

7 保護区以外の状況

令和2年度ニホンカワウソ無人カメラ調査

生物多様性センター

国の特別天然記念物であり、本県の県獣に指定されているニホンカワウソは1975年に宇和島市九島で捕獲された個体以降、確実な生存情報はなく、愛媛県レッドデータ

(1)ナミキソウ自生地

5月14日から出芽した株が確認され、6月8日に開花が見られた。8月21日、7月31日から8月21日間、ほとんど降雨がなく、葉の黄化が見られた。11月13日は低温による黄化が始まり、1月18日には地上部が枯死した。

(2)デンジソウ自生地

12月16日、東予地域の3か所で確認。2か所が水田不耕作地、1か所が水田栽培後のほ場。気温の低下により、葉が茶褐色となっていた。

ブック(2014年改訂)では絶滅危惧1類と評価されている。なお、環境省はニホンカワウソを絶滅種として判断しているが、2012年以降、センサーカメラを設置し、撮影データの確認を継続している。令和2年度、ニホンカワウソもしくはニホンカワウソの可能性のある哺乳類は撮影されなかった。

令和2年度 ニホンカワウソ無人カメラ撮影状況

カメラ ナンバー	場 所	確認された哺乳類 種数	確認された鳥類 種数
1	南宇和郡愛南町(山中の溪流)	※釣り人	
2	南宇和郡愛南町(半島先の河口部)	イノシシ、ネズミ	2
			不明
			1